生と死とのあひだ

竹内てるよ

保健同人社

生と死とのあひだ

竹内てるよ

保健同人社

生と死とのあひだ　定價　一五〇圓

著者　竹内てるよ

東京都千代田區錦田三崎町一ノ二
結核豫防會內　保健同人社
發行者　大渡順二

東京都江戸川區平井二ノ四一〇
印刷者　大熊龍象

東京都千代田區錦田三崎町一ノ二
結核豫防會內
發行所　保健同人社
電話錦田(25)四〇三九
振替東京一九五一八五

昭和二十五年五月五日　初版印刷
昭和二十五年五月十日　初版發行

◇落丁、亂丁、破本は御取換えいたします◇

目

次

生と死とのあひだ……九
死の書……一〇
生の書……三七
藥品のこと……四二
安靜について……四七
運動について……五三
愛について……五八
安靜と運動……六三
成長期と結核について……一二三

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

結婚について……二三九
迷信のこと……二五五
間食のこと……二六九
熱のこと、不眠のこと……二七五
信念と希望……二八七
跋……大渡順二　三二

詩

冬の丘……一〇
むかへ火……三五
生きたるは……三七
流雲……四七
秋を指す……四九
青きぐみ……五三
若さ　うるはしさ……六二、一八八
風……六四
萩咲く……七四
つゆくさ……七五
銀河……八一
水と小鳥……八八
落葉をたく……九四
夜寒……一〇〇

勝者に勝者の人生があるやうに……一〇八
秋來る……一一〇
もくせい……一一五
春の濃霧……一二〇
月見草……一五〇
一つの聲……一五六
投げ出しておかうよ……一六二
風の中の聲……一六五
春來る……一七七
夜のうた……一八二
書記森山氏……二〇三
療友よ……二〇九

裝幀　小山哲男

生と死とのあひだ

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.

生と死とのあひだ

——私の養療記の序章——

死の書

一

冬の丘

たなごころをつぼめて
小さい木の實をその上にのせてゐた
清い初冬の木の實は
かたい上皮の上に日光をてりかへし
少しぬくもつて靜かであつた

とほい昔の日に
私はいつかこの丘に立つてゐた
私はまだ　をとめであつた
赤くてけがれのない脣をもつてゐた

時といふ大きい船體は
純白のマストに夢とまどはしをのせて
その船尾に美しい水脈をひきつつ
私をものせて航行したが

いま初冬の丘に立ち
ぬくもりのある木の實をたなごころにのせて
私は人生の港に入る
大きい時の船體の

たえまなく鳴らす汽笛の音をきいた

よしそれが木の葉をわたる
この初冬のつめたい風の音であつても
ああ誰にそのことを證(あかし)してもらはう

はじめに、つつしんでわたくしは、わたくしの療養記をよんで下さる方に、心からの親愛なる御あいさつをおくらせていただきます。

わたくしは曾てただひとたびも、かうして大地のあたたかさが、かげろふのやうに立ちのぼる、自然の深い春の日に、わたくしの二十年にわたる療養記を書く日のあるといふことを、ゆめにだに、思ひもかけなかつた人間であることを、申し上げなければなりません。

わたくしは、どうして、そんな日を思ひかけたでありませう。わたくしのほかの誰かもまた。

長い二十年の歳月を思へば、あるときは泣き、あるときは笑ひ、そのをりをりの心のうごきと、そのをりをりの生活方法、さまざまの藥品や、安靜の生活、それらがまぼろしのやうに雜然とうかんで來て、整理の方法さへよくつきません。今はただ、療養記の序章だけより書けないと思ふのですが、わたくしはいつか、二十年の療養記をきちんと系統的に書きたいと思つてゐます。

それには一年の生活にしても、春は春、夏はまた夏の生活を書かねばなりません。藥品のことから、それをつかつた樣子なども細かく書き、病室の光の受け工合から說明するとなりますと、ほんとに尨大なものになると思ひます。けれども眞に有效な療養をするといふことは、無駄な健康の歳月を生活するよりも、よほど重大、且つ大變なことであります。

わたくしはまた、醫學的には素人でありますが、もし療養記を書きますときには、できるだけ科學的にそれを書きたいものだと思つてゐます。しかし、わたくしは理知性に缺けてゐまして、なかなか科學的な表現ができさうもありません。

他日わたくしの療養記を讀んで下さる方は、どうかそのたどたどしい文學的な表現の中から、嚴正に、科學的方法の是非を、決定して下さるやうに希望いたします。

二

はじめに「死の書」の序詞を書きませう。

「死の書」は二十年の療養記の中に出て來る三度の危機を、二十代の初め、二十代の終り、三十代の初め、の三回にわけて書いてみるものです。

その病狀、その環境、その心境、そしてその手當などですが、わたくしがもし、この歳月に、胃腸病とか外傷とかを原因とする病氣を患つたのでしたら、恐らくはこのやうに環境のことを說明しなくてもよいのでせう。

結核ほど環境を問題にする病はありません。そして結核ほど環境によつて左右される病はほかにはないと信じるからであります。

第一の危機のおとづれは二十二歳の初夏から秋までありました。

環境は——

二十七歳の主人、Kとしておきませう、會社員です。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.